

ITI Scalar NEWS

vol.3 (2022, May)
ITI Section Japan



ITI スカラ通信第 3 号をお届けします

初夏を迎え汗ばむ日も多くなりました。海外での学会参加を視野に入れている先生方には、続く円安は悩みどころかと思えます。今回の通信では海外でのインプラント治療の状況をお伝えさせていただきます。

上妻 渉先生

University of Connecticut (Farmington CT, USA)

ITI Scholar 通信 2 巡目の今回は前回よりも更に踏み込んだ内容についてお伝えできたらと思います。当分野での大臼歯部1歯欠損におけるインプラントの選択にフォーカスを当ててお話しします。

まずティッシュレベルインプラントが第1選択となり 可能ならワイド径/ワイドネックのインプラントを選択します。これは周囲炎に対する考え方や補綴のエマージェンスプロファイルを意識していることが理由としてあげられますが、それに加えて力学的な観点もあります。当分野での研究の柱の一つとしてインプラントの力学的性質についての研究がありますが、インプラント体は人工物であるという考えから経年的な疲労や劣化からインプラント体の破折などの報告もあり物性的に強度なものを選択する傾向にあります。咬合力に対する見方は人種による体格の違いも関係しているようにも感じます。

また、経営的な側面では、ティッシュレベルはボーンレベルと比べて治療期間や回数の短縮に繋がり、そして2次手術も不要であることから良いという話も講義の一部でありました。大学病院でありながらこういった話がでるのは面白いと思いましたが、プライベートオフィスを持ちながら大学に勤務している教官が少なくないといったアメリカの歯科事情も影響していると考えられます。日本ではお金の話はあまり美徳とされない傾向にありますが、アメリカではむしろオープンな印象を受けます。インプラントの選択などの話はどれが正しいか意見の割れるところかもしれませんが、その背景や考え方に触れることで新しい発見も出てくるので非常に勉強になります。

さて 先日はイタリアのローマで開催された ITI Annual General Meeting 2022 に参加してきました。

ITI Scholar として参加する今回の Meeting は特別なものを感じました。ITI Scholar ランチでは多くの著名な先生方や世界各国から集まった ITI Scholar と意見を交わすなど貴重な時間を過ごすことができました。コロナの影響で横田先生と私がスカラーを1年延期したことで今回は日本人 ITI Scholar 4人が集結できたのも良き思い出です。Young ITI は今若い世代で世界を盛り上げていく動きをみせており、私もその一員として今後世界に発信できるように引き続き研修に励みたいと思います。



ITI Scholar 日本人 4人での集合写真

横田潤先生

Queen Mary University of London (London, UK)

第2回はイギリスの歯科医療における保険制度について紹介します。私が所属する QMUL があるイングランドは日本と同様、NHS (National Health Service) という国民皆保険制度が存在します。本システムは第二次大戦終了後、「揺りかごから墓場まで」をスローガンとして整備された社会保障制度であり、その特徴はQMULを含む主要病院が国営であるため自由度が少ない点や認められる疾患の広さなどに違いがあるものの、現在の日本の国民皆保険制度と近似しております。

NHS の存在により、ほぼ全てのイギリス国民は登録クリニックで治療を受けることとなり、その治療費は 2022 年現在、Band1~3 に分類されております。またインプラントを含めた自由診療は日本と同様、プライベートクリニックで行われておりますが、保険内で認められるインプラントの疾患が広範囲であり、矯正治療自体も NHS でカバーされる点は大きく異なり、今後日本が見習うべき点も多いのではないのでしょうか。

今回は私が所属するこの QMUL での歯科医療、特にインプラント治療を中心にお伝えしたいと思います。

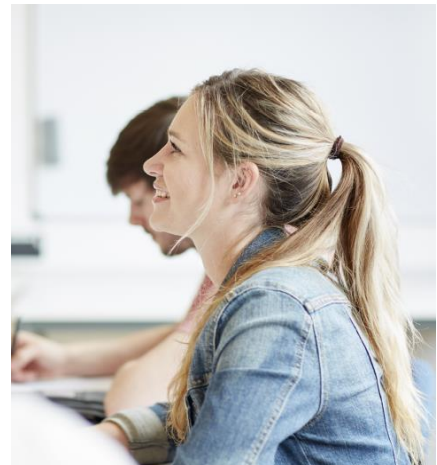
How much will I pay for NHS dental treatment?

- Band 1 dental treatment: £23.80 ex) 急患対応、歯周基本治療
- Band 2 dental treatment: £65.20 ex) 口腔外科、保存治療
- Band 3 dental treatment: £282.80 ex) 補綴、矯正治療 (18歳まで)

※19歳未満 (19歳でフルタイムの学生なら適用) や妊娠または産後12カ月以内の場合、治療費無料

National Health Service HPより抜粋
Page last reviewed: 21 January 2021

イングランドの NHS における歯科治療費



ありがとうございました。